

身近な生きもの調べから保全へ



かわうそ復活プロジェクト
松田久司（まつだ ひさし）

専門家でなくても、「お気に入り」の身近な生きものを調べて、
行政に提案をし、自分たちの生活を見直す
きっかけにできればと思っています。

調べやすい

1. アカガエル類の卵塊調査

カエルは、産卵からおたまじゃくしの期間に水辺が、子ガエルとなって上陸してからは水辺周辺の草地や樹林地が必要です。食物連鎖のピラミッドの中間に位置し、ある程度個体数は多いが、種類数は多くありません。アカガエル類の卵塊は、産卵後しばらくまとまった形のままで、比較的簡単に数えられ、繁殖に参加した雌が、1繁殖期に1つの卵塊を産むことから、成熟した雌の数に近い値が得られると言われています。アカガエル類の卵塊数を調べることは、水辺環境の指標生物とされています。

大洲市にある富士山のじゃぶじゃぶ池において、清掃の時期を後ろにずらすように大洲市に提案して、対応していただきました。

2. ホタル類の調査

ゲンジボタルの幼虫は流水域でおもにカワニナを、ヘイケボタルの幼虫は止水域でモノアラガイやサカマキガイを、おもに食べて成長します。さなぎになる際に上陸して土繭を作るため、適度な湿度のある水辺近くの土手が必要です。成虫になると昼間に休む草地や林と、夜間に雄が発光しながら飛び雌を探すための空間が、産卵のためには水辺近くの苔や湿生草本の生育する湿った場所が必要です。ゲンジボタルとヘイケボタルは、水中を含めた水辺環境の指標生物とされています。

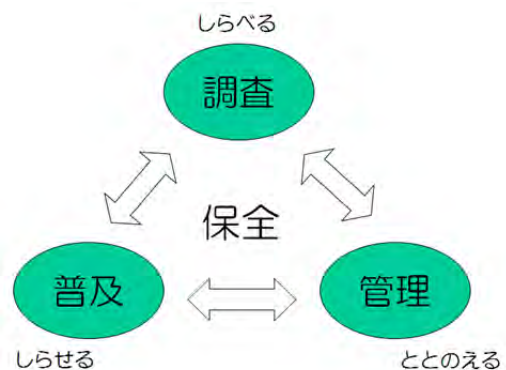
河床掘削や河床の草刈の時期について、提案しています。

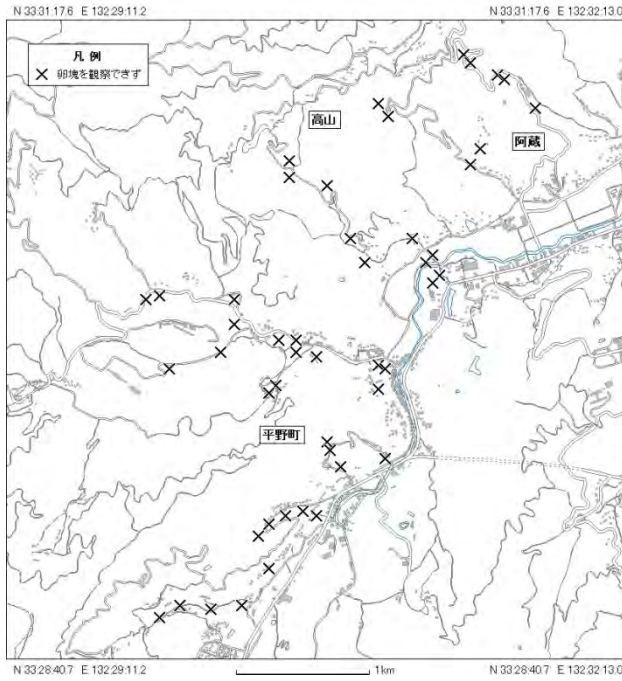
3. セミの抜け殻調査

セミの種類によってそれぞれ好きな環境があって、環境の自然度などを評価することができ、環境の指標として使えます。抜け殻は、その場所でその種類が発生していることの確実な証拠になり、自然環境への影響は最小限です。伊方町での調査では以前から残る照葉樹林の大切さを示せたと思います。

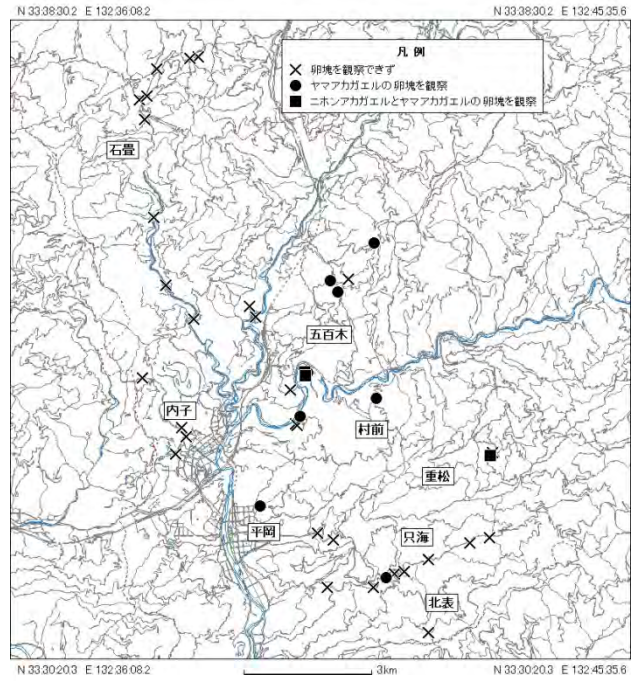
4. 調べたことの使い方

生きものたちに楽しませてもらっているお礼に「守る」ことに使えるようにしたいと考えています。具体的には、生きものたちの暮らし方を他の方にお話しして理解を深めてもらったり、行政の管理作業のやり方や時期を変更してもらったりです。

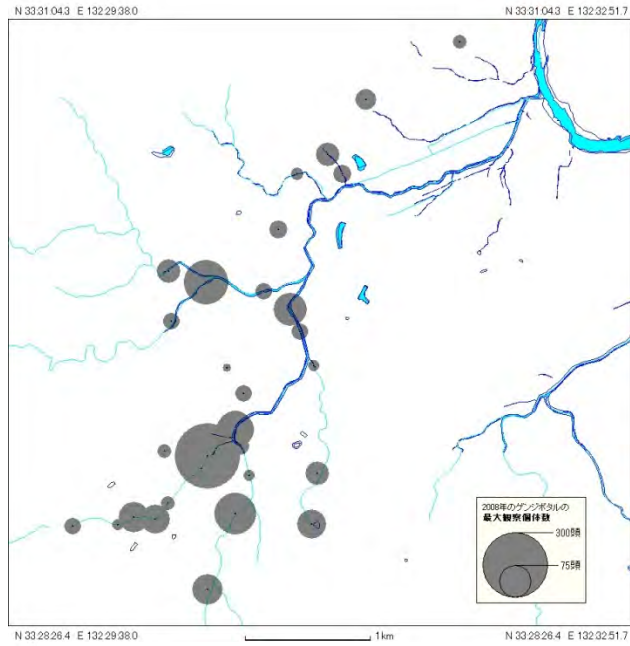




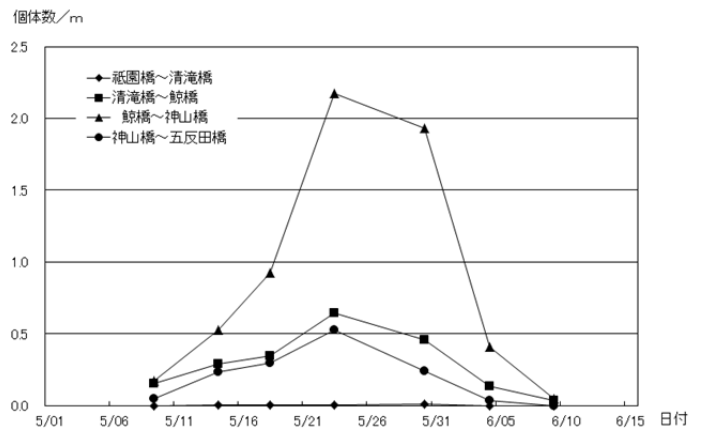
2008年度大洲市のアカガエル類の卵塊調査



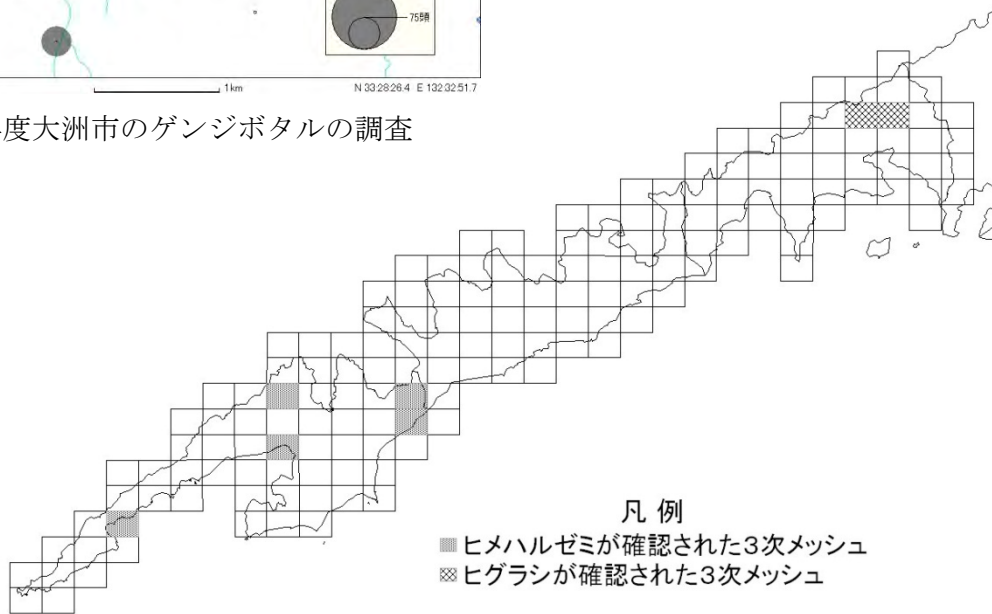
2008年度内子町のアカガエル類の卵塊調査



2008年度大洲市のゲンジボタルの調査



2009年八幡浜市五反田川のゲンジボタル調査



2008-10年伊方町のセミの抜け殻調査